

## (どうする 秘密法) 転換点、いま大事なとき

この国はどこに向かおうとしているのでしょうか。個人情報保護法だけでも参っていたのですが、特定秘密保護法ができた。絶望的な気分です。

個人情報保護法で何が起きたか。軍人のメモや日記を調べに防衛省防衛研究所を訪ねても、「個人情報」にかこつけて見せてくれなくなった。形式的には「遺族の許可が必要」というが、たとえ孫や遠い縁者を探し出しても答えはノー。つまり事実上の閲覧拒否です。秘密法でさらに秘密とされるものが増えると、手も足も出なくなります。

歴史的にみると、昭和の一ケタで、国定教科書の内容が変わって教育の国家統制が始まり、さらに情報統制が強まりました。体制固めがされたあの時代に、いまは似ています。あのときは、戦争になるまでそれから7、8年かかったけれど……。国家の明日というのは不思議なもので、その時代に生きている人は案外わからないものなんですよ。

これから集団的自衛権の拡大解釈、そしてその先には憲法改正の動きが待っているのでしょうか。しかし、そうならないように頑張るしかない。

自民党の憲法改正草案には「公益及び公の秩序」という文言が随所に出ています。「公益」「公の秩序」はいくらでも拡大解釈ができる。この文言が大手をふるって躍り出てくるのが、戦前もそうでしたが、歴史の一番おっかないところ。この国の転換点として、いまが一番大事なときだと思います。

(作家・半藤一利さん)